

寸言

(一社)日本航空宇宙工業会
常務理事

佐藤 幸喜



知行合一#1

新型コロナ禍第7波がようやく収まる気配を見せ始めた10月8日(土)から15日(土)までの間、米国テキサス州ダラスで開催された対面+Web方式のIAQG(International Aerospace Quality Group)に初めて参加して参りました。これは、日本航空宇宙工業会に航空宇宙品質センター(JAQG)事務局を設置し、航空宇宙品質マネジメントシステム関係規格の整備及びJIS Q 9100認証制度の推進を通じて我が国の航空宇宙産業の品質向上及びコスト・ダウン活動を推進する活動の一環となります。今回の米国出張において、あらゆる手続きが事前申請・登録及び電子化されていることに驚きました。一例を挙げますと、出国72時間前までに電子渡航認証システム(ESTA: Electronic System for Travel Authorization)手続きを完了、帰国前までにMy SOSアプリをスマートフォンにダウンロードして新型コロナワクチン接種記録などのデータ登録を完了することなどです。

話は本題に戻り、IAQGの下部組織としてAAQG(America)、EAQG(Europe)及び

APAQG(Asia Pacific)が設置され、APAQGの中に日本、韓国、中国、シンガポール、インドなどで各国AQGが設置され活動しています。IAQGでは“SCMH: Supply Chain Management Handbook”、“OASIS: On-line Aerospace Supplier Information System”、“APQP: Advanced Product Quality Planning”などの略語が各分科会において飛び交う中、これらを正確に理解し、米国・欧州・アジア太平洋地域代表として全世界的な航空宇宙産業における品質向上等を図ると同じ目的に向け、熱い議論が体感温度18℃の会議室で交わされる場であると認識した次第です。IAQGメンバーとして参加された方々も担当分野で十二分に実力を発揮し、抜群の存在感であったことを申し添えます。

結びに、SUBARUの岡本様がこれまでのご功績によりIAQG総会前夜レセプションにおいて前APAQGセクターリーダーとして表彰されましたことお伝えします。誠におめでとうございます。